

「常磐線特急列車車掌一人乗務」施策 「いわき民報」でも取り上げられる！

一部除き車掌2人から1人に

JR「ひたち」
常磐線「ときわ」で運用

JR東日本水戸支社が常磐線の特急「ひたち」「ときわ」で、一部列車を除いて車掌を2人から1人にする運用を始めたことが、29日までに分かった。JR側は「社会環境を踏まえて乗務体制を見直した」と説明するが、組合側は「車掌の負担が増え、乗客の安全にも問題がある」と強く主張する。

車掌が1人となったのは20日から。水戸支社は乗客の安全面に関して、車内の防犯設備を適宜整備しており、何かあった場合にはすぐ駆け付けると語る。

自由席を無くした着席サービス（平成27年3月から）も浸透しており、指定券の事前購入を通じて、車掌の業務量は変化したとも指摘する。ただ限らずしも1人ではなく、繁忙期などの増員にも柔軟に当たっていくとの考えを明かす。

物理的な無理が生じていると組合側は、車掌が2人の時は、1人が中間車で車内改札や巡回を実施し、もう1人は最後尾の車両でアナウンス・ドア開閉を専属で務めていた。今後は1人がすべてを担う。

JR東労組水戸地方本部は無理な効率化が進められ、車掌の削減によって、早速サービス低下を招いていると訴える。車両の巡回が難しくなり、



市民の長距離移動を支える特急「ひたち」＝29日昼すぎ、いわき民報ビルから撮影

乗り越し精算や乗客のトラブルに対応できていないという。

020年東京五輪・パラリンピックを控え、テロ対策の重要性が増している」と示す。6月には東海道新幹線で、乗客3人が男になたで殺傷される事件が発生しており、車掌が男に近づき、説得に当たってさらなる凶行を防いだ。

水戸支社は引き続き、社員や利用者に理解を求めていく。

10月29日 いわき民報(夕刊)

すでに多くの乗客・地域住民から「安全」「サービス品質」低下に対する不安の声が寄せられています！